2024年度 第2回
学校教育事業委員会 議事録

日 時：2024年12月18日（水）
午後2時30分～4時00分
対面・オンライン ハイブリット形式

I. 出席予定者

濱瀬 真知子、岩本 哲人、上谷 円、栗原 由加、中出 恵子、松本 聡子（以上委員）
西田 勉（担当理事）
高等学院担当職員 櫻井 英治、川北陽子
専門学校担当職員 横山 徹太郎、鐘 瑋悦、古谷 茉穂、中道 愛子（担当主事）
（以上職員）

I. 欠席予定者

海老 直人、岩野 祐介（以上委員）

I. 聖書朗読

マタイによる福音書5章9節

「平和を造る人々は幸いである」

（2024年神戸YMCA年間聖句）

I. 開会祈祷

中道氏により開会祈禱がなされた。

I. 近況報告

各委員より、それぞれ近況報告がなされた。

I. 議題

1. 神戸YMCA全体報告

担当理事西田氏より、報告がなされた。

：11月6日、専門学校ホテル学科60周年記念式典をANAクラウンプラザホテル神戸にて実施。
約100名の方に参加いただき、盛会であった。

2. 2024年度各校の状況報告

1) 専門学校 日本語学科

鐘氏より、別紙資料に基づき報告がなされた。

：2025年4月在留資格認定証明書交付申請（留学）状況の報告がなされた。漢字圏の学生が戻ってきている。ミャンマーが減少。ミャンマーに頼らない学生募集が求められる。

：日本政府はミャンマーの国内事情を考慮し、在日ミャンマー人に特定活動ビザを発行するようになっている。入国しやすい留学ビザを申し込んで、入学してすぐ特定活動ビザに変更し退学する例も多くなっているが、優秀な学生が集まっていることとエージェントが丁寧に指導しているため、神戸YMCAではまだこのようなケースはない。

：異文化にふれ、認め合う、多文化共生理解を深め、国際的な人に育てるのが教育理念のため、国籍数を増やすことが今後の課題である。

：8月に実施した台湾YMCAでの合同学校説明会について報告があった。参加者の年齢層が上がっている。また、卒業後の進路として日本での就職希望者が増えている。

- ：進路について、ホテル学科への内部進学生が増加。
 - ：5年ぶりに余島旅行を実施。また、10月には芋ほりを実施した。気持ちのリフレッシュや、休日の過ごし方を示す良い機会である。
 - ：精神面で不安定になる学生がやはりいる。
- 以上の報告を受け、以下の意見があげられた。
- ：精神的に不安定な学生について、ケースバイケースだが、気持ちが不安定になる理由は、具体的な場合が多い。心が不安定な状態だと、小さなことで落ち込むので、今一番気になることを見つけて、小さいことから解決することが重要である。

以上、承認

2) 専門学校 ホテル学科

古谷氏より、別紙資料に基づき報告がなされた。

- ：学生募集状況について、留学生の来校・出願が増加している。要因は、日本語能力をN2相当に変更したことによるものであり、学校訪問でそのことを告知案内したことにある。これまで内部生獲得に苦戦していたが、内部生向けのオープンキャンパスを実施したことで接触の場を設け、より学科認知に繋げることが出来た。その結果、出願に繋がっている。
- ：学校創立60周年記念式典を開催し、学生たちも、関係者や卒業生との交流を持つことができた。
- ：卒業制作・模擬挙式について、今年は8名と少人数ながら、挙式・披露宴を作り上げることができた。何事にも興味を持ち積極的に取り組む学年で、この精神が後輩たちに受け継がれていけばと願う。

以上の報告を受け、以下の意見があげられた。

- ・60周年記念行事について、参加した卒業生が、現役生の報告を聞き、元気をもらったという嬉しい声が聞かれた。
- ・模擬挙式について、今年のイベントは、出席者に楽しんでもらいたいという学生たちの気持ちが表れていた。

以上、承認

3) 高等学院

櫻井氏・川北氏より、別紙資料に基づき報告がなされた。

- ：生徒募集について、来校者数が前年比減となっている。N高校をはじめとした大手では、夏に内定を出し、青田買いしている学校が多い。広報力（マーケティング、人材、資金など）に違いがあるのは歴然としている。
 - ：現代の通信制高校は、気軽・自由な学習スタイルが主流で、決まった時間割で対面授業のYMCAは、大切な教育方針を貫いてはいるものの、時代にマッチしていないのかもしれない。マーケットとYMCAの間に乖離があるとすれば、危機感を持っている。私立学校は生徒が集まらなると閉めるしかない。
 - ：後期は学校行事が多かった。特に学院祭は新入生にとって大きな山場であり、体験を通して達成感を得ることができた。
 - ：ホームカミングデーで多くの卒業生が来訪し、また、進路講演会では卒業生が在校生に対して進路の話をするなど有益であった。卒業後のつながりを大切にしたい。
 - ：3年生の進路状況、生徒・保護者観について心理面での相談が増えていることを報告した。
- 以上の報告を受け、以下の質疑がなされ、また意見があげられた。
- ：募集状況について、次年度の生徒数はどの程度見込んでいるか。
→新1年生の数がまだ読めない。
 - ：生徒募集について、中学まで不登校でも、高校では学校生活をしたいという層は必ず一定

- 数いる。掘り起こしていくこと、ニーズにアタックすることが必要である。
- : YMCA では少人数でアットホームななか、今まで築くことができなかつた人間関係を築くことができたという声を多く聞く。今の環境を維持してあげることが重要である。
 - : 大学側からすると、通信制高校出身の学生について、大学は高校と違い、自分で情報をとっていくことが必要であり、目的がなければ続かない。人や集団が怖い・慣れていないという人が大学で苦勞する。YMCA のように、人と何かを作り上げる経験があることは強い。

以上、承認

3. その他

1) 2024 年度 3 月 全体職員研修について (中道)

- : テーマは「ジェンダー理解」。
- : 講師依頼先は ReBit (リビット)。東京の業者につき、オンライン研修とする。
- : 合理的配慮が義務化された今年、ジェンダーも見過ごすことができない問題である。
- : 日程は、3 月 17 日 (月)

以上、承認

2) 次回日程について (中道)

複数の候補日をメール配信し、調整する。

以上、承認

4. 閉会祈禱

西田氏により、閉会祈禱がなされた。

以上

記録：横山徹太郎